

第4回 建設現場で働く人々の誇り・魅力・やりがい検討委員会  
議事要旨（案）

1. 開催日時：令和元年12月2日（月）15：00～17：00
2. 場所：中央合同庁舎第3号館 11階特別会議室
3. 議事
  - （1）台風19号の災害対応等について（報告）
  - （2）前回までの主な議論及び有識者インタビュー結果について
  - （3）「建設現場で働く人々の誇り・魅力・やりがい」の向上に向けた提言（案）
  - （4）質疑

主な議論の内容は以下の通り

**（1）建設業の新たな価値と行動・情報発信に当たってのコンセプトについて**

- 「使命感」と「チャレンジ」を一括りにするとわかりづらいので、工夫してはどうか。
- 外の人はどう見てくれるかということが非常に大事で、外と中がギャップなく繋がって欲しい。「格好いい」はその意味で当てはまる。
- 若い人同士が建設業の魅力や働きがいを伝え合える仕組みや、外の人たちが建設業にもっと興味を持ちたくなるような仕組みの構築が重要。
- 中小建設業にとっては処遇改善が何より大切。処遇改善とリブランディングを車の両輪に位置付け、処遇を改善していくと同時に、外から「素敵な仕事だね」「いい仕事をしているね」と言われるように追求していくことがポイント

**（2）具体的な取組・施策展開の方向性について**

- 若い人達は、災害時の被災地支援に参画出来ることに魅力を感じている。災害時の活動の姿をもっと見せることが大事。
- 仮囲い・ユニフォームコンテスト等、若い人を巻き込み、参加したい仕掛けを作る必要がある。若い人にとって、自分たちのデザインが表に出ることが大きなモチベーションとなる。紙媒体でなくウェブでの案内も重要。建設業関係者が自ら行動し動かないと、周りも動かない。

- Internal（内部）のターゲットは幅が広すぎるので、具体の取り組みを進める際には、若手なら若手、女性なら女性でターゲットを絞り込むとよい。

### (3) その他

- 建設業界は PR が不足しているのではないか。広告費にお金をかけるという概念が薄く、断片的にしか行われていない。
- ユニフォーム、仮囲い、銘板、女性活躍の推進は、以前に立ち上がった施策だが、瞬間的にやるだけで長続きしないのは駄目。そのため行政が背中を押す必要があり、今回の提言は意義深い。ブロックごとに協議会を作るというのも継続的な取り組みには有効。

以上